

## ◆◆◆ RI 2510 地区

### 「第6回 帰国財団学友報告会」◆◆◆

主催:財団学友委員会・財団学友会

とき:平成22年6月12日(土)

ところ:札幌第一ホテル

出席者:ロータリー:32名、報告者:8名

学友:13名、奨学生候補:4名

#### 【第1部】国際親善奨学生

『米国・欧州での学究生活』 05-06年度 稗田健志  
(札幌手稲 RC:アメリカ:1学年度)



私は、2005年9月から2006年5月にかけてロータリー財団国際親善奨学生(一年)としてコロラド大学ボルダー校政治学部に派遣いただいた経験、

およびその後四年にわたる米国および欧州での学究生活を報告した。

アメリカ合衆国西部のロッキー山脈の麓に位置するコロラド大学ボルダー校は、人口十万人のうち三万人を学生が占める学園都市であり、そこでの生活は文字通り勉強・研究「だけ」の生活であった。修士・博士一貫のPh.D.プログラムに在籍したため、はじめの一年間は週三・四コマの演習と期末に提出する論文の準備におわれ、ほぼ毎日一冊のペースで研究書を読破するのにすべての時間が費やされた。しかも、ディスカッション中心の大学院演習では、読んだかどうかよりも、内容を理解し、課題文献についての分析をネイティブスピードの(留学生のことなど気にも留めない)議論の文脈で披瀝できるかで評価され、留学初期で英語力に難のある段階では気の休まらない日々が続いた。幸運にも、二年目は政治学部にティーチング/リサーチアシスタントとして採用されコースワークを続けることができたが、今度はこまっしゃくれた米国人学部生を英語で指導をするという職務が加わり、半期で五キロ体重減と、文字通り身の細る日々が続いた。

ボルダーでついた指導教授の異動により、2007年9月より欧州連合の研究機関であるフィレンツェの欧州大学院大学政治社会学部へと移ったが、こちらはアメリカの大学院と対照的であり、のんびりとした雰囲気的な

か研究に専念することができた。ときにイタリア人のいい加減さや、研究所に集う欧州のハイソなエリート達の感覚にギャップを感じたが、そうした異文化体験を楽しみながら博士論文執筆を終えることができた。

最後となったが、米国・欧州で大学院教育を受け博士号を取得するきっかけを作ってくださったロータリー財団の皆さまに深い謝意を記し、報告を終えた。

#### 【第2部】「国際親善奨学生・文化研修生報告」

『タミル文化につつまれて』 08-09年度 佐藤知香子  
(札幌はまなす RC:インド:文化研修3ヶ月)

私の留学先はデリー、ムンバイ、コルカタに次ぐ南インドの大都市チェンナイで文化研修をして参りました。人口は約600万人。言語はタミル語、その他に英語も使われています。私が体験したタミル・ナドゥをご紹介します。



①バガバッターメラーというお祭りで、バラモン男性だけでインド神話のダンスドラマが演じられます。私もインド舞踊のバラタナティアムを奉納しました。

②アーティスト養成プログラムの一環でダンス、ヨガ、等ワークショップがあります。

③南インド料理は野菜中心で、味はホット&サワーです。5~7月は、マンゴーシーズンで、いろいろな種類が並びます。

④バスの時刻・ルート表がなく、バスが来るたび車掌さんに目的地まで行くかを尋ねながら通学のルートを2週間かけて探しました。

インドでは、アンバトール RC にお世話になりました。RC のミーティングは、殆ど英語で会話されおり「なぜ、タミル語を勉強したいの？」と何度も質問されました。最初の頃、この意味がよくわかりませんでした。ミーティングの他、RC で支援しているホスピタルへの訪問や、報告会、アワードファンクション等行事へ参加したり、私のインド舞踊パフォーマンスの機会を戴きました。

先に上げた①の祭りは300年近い歴史がありますが、存続されているのは3つの村だけです。伝統的で人口が多くても伝承するのが難しくなっているそうです。

私も、三代にわたり北海道神宮の舞楽会で神楽を奉納しております。次世代へ伝承していく者として、大切

な事は何か考えさせられます。インド留学では、知り得る事のできなかつた文化、人、など沢山の貴重な経験させていただきました。

この経験を私だけのものせず、何かの形で活かしていきたいと考えております。このような素晴らしい機会を私に与えてくださった札幌はまなす RC はじめ、留学に際しお力添えいただきましたロータリアンの皆様にご心より感謝申し上げます。

### 『ウィーン滞在記』 08-09 年度 伊藤珠代

(札幌手稲 RC:オーストリア:文化研修6ヶ月)



文化研修奨学生としてオーストリアの首都ウィーンに派遣され、2009年6月末から6か月間を語学研修中心に音楽の都で過ごすことができました。

まず、ドイツ語研修で通った学校では大学進学を目指す多くの学生達、仕事で長期滞在となったビジネスマンなど多国籍にわたっての人々との多くの出会いがありました。イスラム圏の生徒も多く、ラマダンの時期にはその期間の過ごし方を直に見聞し、また内戦中のソマリアから亡命しオーストリア政府の保護のもとドイツ語を習得して仕事に就こうとしている青年など、日本ではその生活を垣間見ることが出来ない人々の多様な考えや精神性を身近で感じられ大変貴重な体験でした。

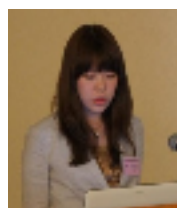
ロータリーの活動では例会の他、ポリオ撲滅募金活動参加やロータリー奨学生や元奨学生の音楽学生達による演奏会付きのパーティーに参加し、アメリカ、ハンガリー、日本人5名の歌や楽器の伴奏をして、音楽を通して協調し合い感性の交換ができました。

ウィーンの街並みは美しく、9月から始まった音楽シーズン中は毎日世界最高レベルのオペラや演奏会が開かれ音楽を仕事としている私にとっては大変素晴らしい環境でした。

到着当初、海外での生活は言葉の問題もあり慣れない土地で、自分の意思をはっきりと提示していかなければ伝わらないのではないかと、つい自分の希望や要求ばかりを通そうとして上手くいかない場面が何度かありました。しかし、落ち着いて礼儀や感謝、誠意を持って接するように心がけてからは人との関係もよくなり自然

と希望も通るようになっていきました。国や宗教、環境などが違っても大切にすべきところは同じだと、身をもって痛感したことはこの留学期間でも最も重要な学びのひとつです。

最後になりましたが財団、奨学金委員会、派遣地区、受入地区、学友の皆様には出発前より惜しみなくお力添えをしていただきましたことを大変ありがたく改めてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。



### 『スペインで出会った文化』

08-09 年度 庄美紗恵

(北斗 RC:文化研修6ヶ月)

### 【第3部】「09-10 年度GSEスウェーデン派遣チーム報告」

#### 『あなた自身の社会～スウェーデンからのメッセージ』

団長:丸山淳士 (真駒内 RC)

団員:竹内孝(札幌清田 RC) 鈴木洋史(札幌手稲 RC)

羽田野真寿美(札幌東 RC) 松本かな(札幌北 RC)



#### 羽田野真寿美

私は現在、高齢者施設で介護職員として勤務しており、福祉先進国であるスウェーデンで1ヶ月の研修を受けることは職業人として素晴らしい経験をする事ができたと思いますし、一人の人間としても異なる文化に触れる事ができたことは有意義な経験でした。

ヨーテボリから移動し Varberg という街の認知症の人たちが生活する施設では色彩をケアに取り入れており参考になりました。認知症の人たちにとって物理的環境を明確化することは明瞭さを作ることに繋がります。また、日常生活における手順を示すことで時間が把握できるよう工夫されたツールもありました。

Boras という街ではエルフスボリというフットボールチームがあり、ホストファミリーの Tore さんとともに試合を観戦する事ができました。いくつかの高齢者施設を訪問しましたが、その中の一つは働きながら介護を学ぶ学生たちの職場でもあり彼らに話を聴く事ができました。施設のスタッフと教員が密に連携しているため、仕事に對し悩みや不安を軽減できているとのことでした。そして、ほとんどの学生が卒業後は福祉の仕事に就くそう

です。しかし、スウェーデンも今後、より高齢化が進むため10年後は介護職の不足になるだろうとBorasの市役所の人は話していました。

日本から持って行った食材と現地で調達した食材でカレーお好み焼、とうふサラダとプリンを作り、ホストファミリーとともに日本食を楽しむ機会もありました。

普通の旅行ではできない多くの経験とスウェーデンの福祉の現場を実際に見学することで得たものは、言葉では言い尽くせないものがあると思います。

最後に RI2360 地区、RI2510 地区、ホストファミリーの皆様、GSE リーダー、メンバー、この研修に携わった多くの皆様の協力には本当に感謝しております。



#### 松本かな

スウェーデンでは多くのホストファミリーに出会いました。ホテルに滞在するのではなく、ホームステイする事で、スウェーデンと日本の文化の違いを体

感しました。特に食生活が質素なものには驚きました。ボロスという街で出会った若者の話を聞くと、高校を卒業すると1年間ほど世界中を仕事しながら旅をして、ゆっくり将来について考えてから大学進学や就職をするそうです。他者とのつながりを大切にする姿勢が見受けられ、これがスウェーデンの国民性の一つなのではないかと感じました。

スウェーデンでのロータリアンは皆さん気さくで、例会でもラフな姿で登場し、私たちの発表中に突然質問を行ったり、とても自由な印象でした。しかし、それらには私たちのプレゼンテーションをより興味深い物にしようという優しい気遣いであって、場が盛り上がりました。

スウェーデンの人々は身の丈にあった生活をして、休暇等で自分の時間を楽しむ時は存分に楽しむという質の高い生活をしているという印象を受けました。この生活の仕方は、私たち日本人も多いに学ぶべき物と感じました。



#### 竹内孝

ヨーテボリ市には研修の最初と最後、2回訪れることができたためとても思い深い街となりました。人口は約50

万人。首都ストックホルムに次ぐ第2の都市で、工業や貿易の街として栄えています。最初の訪問ではヨーテ

ボリ市を反時計回りに各地を訪れる研修がスタート。そして約3週間後、再びヨーテボリへ戻って来た時は、気温はかなり暖かく、夜の10時過ぎまで外は明るくなっていました。

2回目のヨーテボリでは市庁舎見学、セーリング、島観光、バーベキューなど、夢のような時間を過ごした。フェアウェルパーティーの準備、お土産の購入、荷物整理、さらに学友会から報告会の依頼など、次々と現実

に直面。研修期間中、米に飢えたり、日本のティッシュの柔らかさやウオシュレットの有難さなど身を持って体験。しかし自分にとって一番のストレスは手話で会話や同調ができないこと。そのため、ろう学校へ見学に行けた時は、「水を得た魚」というより、「手話を得た竹内！」。さらに嬉しいことに、授業に参加し、一緒に給食も食べることができたので、久しぶりに学生気分を満喫。

本当にありがとう、スウェーデン。



#### 鈴木洋史

「いつ帰って来てもいいようにヒロシの部屋は空けておくよ。」あるホストファミリー宅を後にする際に目を少し赤く

したお父さんがかけてくれた言葉だ。私もその気持ちが本当にうれしくてにじんでよく見えないお父さんと固い握手を交わしていた。GSE研修はこのようなかけがいのない出会いの連続であり、目に見えない宝物をたくさん持ち帰ることができた。私は現在、(財)北海道難病連という難病を抱える患者と家族でつくる団体に所属し、医療・福祉の相談員として働いている。このGSE研修についてお話をいただいた時、まだ書類選考、面接も受けていない段階から、スウェーデンで生活を送る自分を思い描いていた。特に今回のプログラムは福祉・医療に重点をおいたもので、研修地は「あの」スウェーデン。「高福祉というけど高負担でもある。国民は満足して生活をしているのだろうか?」、「障害者だけでなく難病を抱える人たちに対しても手厚い制度があるのか?」「私の勤務先と同じような団体は?」、「とにかく行ってこの目で見たい!!」、このような調子でボルテージが日々上がっていった。

その反面、強行スケジュールで毎日かけあしで回った新婚旅行をのぞけば今回が初めての海外になる私

にとって、海外生活やプログラムに対する不安や疑問もまた積み重なっていった。特に「難病」というマイナーな事柄についてプログラムに取り入れてほしいという希望が果たして叶うのかが一番の不安であった。

結果的には日本・スウェーデン両GSE委員会の多大なるご協力で医療機関や難病の患者家族団体を訪問することができ、同職種の方と懇談させていただくこともできた。同じことでうれしく思い、同じことで悩み、同じ問題を抱えていることを確認できたことは一番の収穫であった。遠いスウェーデンがとても近く感じられた瞬間であった。

最後に財団学友会、学友委員会の皆様にも研修前後にわたって私たちメンバーを親身になって支えてくださり、報告の場も提供していただいた。研修を通して出会うことのできたすべての皆様に感謝し、この経験を胸に職場、社会に貢献できるよう努力することを誓い、報告といたします。

#### 財団学友会総会・懇親会風景



出席者全員で記念写真

### ◆◆◆ 学友会の活動 ◆◆◆

#### 「09-10 年度活動報告」

##### 【主な活動】

- 09/7/4 「07-08 国際親善奨学生壮行会」  
KKR 札幌ホテル(学友 3 名出席)
- 09/9/12 「学友委員会・学友会合同委員会」  
札幌第一ホテル(委員会 3 名、学友 4 名出席)
- 09/10/17 「地区大会(滝川文化センター)」  
学友会ブース開設(学友 2 名参加)
- 10/2/20 「学友会新年会」(全 15 名出席)
- 10/3/6 「10-11 年度国際親善奨学生オリエンテーション」  
NTT 北海道セミナーセンター(学友 4 名参加)
- 10/4/17 「学友委員会・学友会合同委員会」

- 札幌第一ホテル(学友 2 名出席)
- 10/4/29 「GSE スウェーデン派遣チーム壮行会」  
札幌第一ホテル(学友 5 名参加)
- 10/5/15 「学友会役員会」  
札幌学院大学社会連携センター(学友 8 名)
- 10/6/5 「学友委員会・学友会合同委員会」  
札幌第一ホテル(委員会 3 名、学友 4 名出席)
- 10/6/12 「第 6 回帰国学友報告会・学友会総会」  
札幌第一ホテル(全 57 名出席)

#### 【主な学友卓話】

- 09/11/4 「栗沢 RC」 梶川裕史
- 09/11/5 「苫小牧東 RC」 橋口とも子
- 09/11/10 「江別西 RC」 森田茂
- 09/11/12 「滝川 RC」 梶川裕史
- 09/11/20 「小樽南 RC」 白畑博信
- 09/11/24 「白老 RC」 菅原桂子

#### 『卓話報告』①

90GSE 森田茂

11 月 10 日江別西 RC の例会にて、「家畜の福祉」と題し、最近の動物科学の研究成果をホンの少し紹介しながら、動物たちの心を理解した、動物に配慮した飼い方とは何かを、話させていただいた。

結局は、私たちが食し、私たちの命とするために飼っている動物たちも、生存中は、肉体的にも精神的にも健康でいたいという欲求が存在し、私たちも、不健康な家畜より健康な家畜から生産された食品を得たいと考えている。世の中には、「野生の状態が一番」的な動物解放への誤解があり、「草を食べさせれば、牛は Happy」という短絡的な伝説がまかり通ることになる。こうした内容を吟味しない風潮は、「最近の若者は…」的発想にも通じる。よく見て、話をして、一緒に活動すると「最近の若者は、ずいぶん立派だな」的考えになることが多い。

動物に「5 つの自由」と呼ばれる原則を保障した生活環境を提供する。そうした上で、動物が私たちに伝えようとしているサインを適確に読み取り、これを基に動物への対応を改善する(環境を再構築する)。こうした行為の繰り返しは、「動物に配慮した飼い方」である。乳牛を研究している私は、「ウシの生活は、人生の教訓であるかもしれないという話」を、話の中に、いつも織り込んでいる。私の早口で、丁寧な説明をしない動画と写真ばかりのスライドでの話でも、卓話後に受け取ったメールでは好評をいただいたようである。20 年前の GSE 派遣

が私の人生に多くの出会いと、影響を与えている。今回の卓話の機会もそうだが、いつもロータリーには大感謝申し上げます。

## 「卓話報告」②

### 99 奨学生 菅原柱子

11月24日の財団月間に白老RCにて卓話をさせていただきました。10月の地区大会で学友会の展示をしてい



たことがきっかけとなり、今回の卓話となりました。例会の前にはアイヌ民族博物館の見学もさせていただき、北海道に生まれ育ちながらあまりよく知らなかったアイヌの文化についてふれることができ大変勉強になりました。例会では2000年に財団奨学生としてアメリカで過ごした3ヶ月間の話から、現在に至るまでの私の国際交流活動について話をさせていただきました。留学からあつという間に10年がたち、これまでにスポンサークラブの江別RCをはじめ、2510地区内の12クラブで卓話の機会をいただきました。全クラブでの卓話を目指してまだまだ頑張っていきたいと思います。

## 「財団奨学生オリエンテーションに参加して」

### 00 奨学生 梶川裕史

学友会では留学前の新奨学生に行う支援の一環としてオリエンテーションに参加しています。国際ロータリー本部から送られてきたマニュアルだけでは解りづらい提出書類等の事務的な手続きのアドバイスをしたり、異国の地で充実した留学生活を送るポイントや、滞在期間中に起こり得るアクシデントやハプニングへの対処法とかを経験を交えてお伝えしています。

オリエンテーションの中でも一番充実しているのは総仕上げの合宿です。今年も3月に中央区のNTTセミナーセンターで行われました。日中のスケジュールを終え食事をした後、奨学金委員会の方々より差し入れをいただき、周りに迷惑を掛けないように大部屋に集まって時間の許す限り語り合います。10-11年度の奨学生は女性4名、男性2名で構成されていますが、リラックスした中での会話は勉学に関することは勿論、政治・経済から文化・芸術や果ては国際恋愛に至るまで本音がバンバン飛び出します。私達学友メンバーや奨学金委員会

の先生方からも屋間には語れなかったエピソードが披露されたりサプライズ満載です。

彼ら新奨学生が充実した留学生活を送り、帰国したらそれをまた次世代に伝えていく、学友会は正に世代間ロータリーの醍醐味を味わえるところです。毎回それぞれの年度でグループの特徴が異なるのも面白く、今年はどうな奨学生が現れるのかと新奨学生との交流を毎年とても楽しみにしています。

## 「GSE スウェーデンチームの研修支援について」

### 93GSE 鈴木抄織

スウェーデンチームの皆さん、お帰りなさい！

先日の帰国報告会で帰国直後のメンバーの晴れやかな笑顔を見て、心底うれしくなりました。私がメンバーの皆さんに初めてお会いしたのが去年の春。彼らにとって最初の研修会ということで、期待と不安に包まれた緊張した面持ちでした。

学友会活動の大きな柱のひとつに、出発前の奨学生・GSEメンバーへのサポートがあります。経験者ならではの視点で適切なアドバイスを！と意気込んでいた私ですが、実際のところは・・・(苦笑)

メンバーに決まって実際に出発するまでの1年にわたる研修でどんなことを勉強したり準備したりするのか、疑問や不安を少しでも解消してもらおうと、職業研修・例会でのスピーチ・ホームステイでの交流・パーティでの出し物・チームユニフォームや名刺のこと等々をお話させていただきました。

2月に準備最終段階ということで研修の成果を発表してくれる機会があり、みなさんそれぞれ、ユーモアを交え工夫をこらしたスピーチを自信たっぷりに披露してくれました。その夜の学友会新年会では、年代や国籍がさまざまな学友と楽しく交流することもできました。

さあ、これからは皆さんがサポートする側です。スウェーデンでの体験を日々の生活に活かすとともに、これから学友会として一緒に活動していきましょう！

## 「10-11年度活動計画」

- 1) 総会・役員会の開催
  - ①総会：年1回
  - ②役員会・例会(随時)
- 2) 学友委員会との連携

- 3) ローター活動への参加
  - ① 地区大会への参加  
学友会のブース開設
  - ② 各 RC への卓話活動
  - ③ 各 RC 行事への参加
- 4) 新規奨学生・GSE の支援
  - ① 派遣予定者の支援(アドバイザー)
  - ② オリエンテーションなどの支援
- 5) 対外活動
  - ① 国内外他地区学友との交流等
- 6) メーリングリストの充実・活用
  - ① 登録者の拡大
  - ② 遠隔地の学友間の交流に活用
  - ③ 学友の所在確認への活用
- 7) ニュースレターの発行  
年1回発行し、学友や第 2510 地区各ロータリークラブ等へ配布
- 8) 学友名簿の充実
- 9) 学友会設立 10 周年行事の検討・準備

### 「10-11 年度 財団学友会役員体制」

顧問	齋藤博史 (財団学友委員長:千歳セントラル RC)
顧問	岡宏幸 (90GSE:札幌東 RC 推薦:元会長)
顧問	菅原秀二 (91 奨学生:札幌真駒内 RC 推薦: 札幌大通公園 RC:前会長)
会長	白畑博信 (90GSE:小樽南 RC 推薦)
副会長	鈴木抄織 (93GSE:札幌東 RC 推薦)
副会長	梶川裕史 (00 奨学生:札幌東 RC 推薦: 次期会長)
幹事長	菅原桂子 (99 奨学生:江別 RC 推薦)
幹事	森田茂 (90GSE:江別 RC 推薦:メーリングリスト)
幹事	田邊元 (91 奨学生:札幌東 RC 推薦)
幹事	渡辺多会子 (95 奨学生:札幌手稲 RC 推薦)
幹事	吉倉省吾 (96GSE:札幌 RC 推薦)
幹事	西真木子 (98 奨学生:札幌 RC 推薦)
幹事	上野智恵美(00 奨学生:札幌はまなす RC 推薦)
幹事	谷口正弘 (00 奨学生:札幌北 RC 推薦)
幹事	笹村久美 (04 奨学生:苫小牧北 RC 推薦)
幹事	中内健太 (06GSE:札幌清田 RC 推薦)
幹事	佐藤美香 (07GSE:札幌清田 RC 推薦)
幹事	佐藤知香子 (08 奨学生:札幌はまなす RC 推薦)
幹事	鈴木洋史 (10GSE:札幌手稲 RC 推薦)
会計	伊藤和弘 (98 奨学生:小樽南 RC 推薦)

### 「新幹事挨拶」

#### 00 奨学生 谷口正弘

2000 年 7 月から 2002 年 4 月までマルチイヤー奨学金をいただき、アメリカのピッツバーグ大学国際公共政策大学院修士課程で軍事・安全保障を研究してきました。帰国後、2003 年より東京で就職をし、今年 4 月に札幌

に戻ってきました。今年 3 月まで国際協力 NGO「難民を助ける会」の海外事業スタッフとして、ミャンマーでの障害者事業、ザンビアでの HIV/エイズ対策事業、フィリピンの台風被害緊急援助等を担当しました。札幌では大学職員として勤務しています。NGO などでの国際経験を活かしながら、これまで物心両面で応援していただいたロータリーへの恩返しに微力ながら尽力してゆきたいと思っております。

#### 08 奨学生 佐藤知香子

留学前に、オリエンテーションや報告会等で学友会幹事の皆さんとお会いする機会があり、その活動や留学経験に触れる事はとても興味深く有意義な事でした。そのような方々の仲間に入れて戴き活動できる事を嬉しく思っております。留学で経験して来た事が、私一人の経験に終わるのではなくお役に立てる機会を戴いた事はなによりです。

#### 10GSE 鈴木洋史

GSE 派遣を間近に控え、楽しみとともに若干の不安も持ち合わせていた私たちメンバーにとって、学友会の皆様の存在はとても大きなものでした。GSE の先輩方からはそれぞれが取り組まれたプログラムについてお聞きし、奨学生の皆様からは長期滞在から得た生活の術を教えてくださいました。同じ経験をされたがゆえに、私たちの大小様々な不安や疑問もよく汲み取っていただきました。事前研修に何度も顔を見せてくださったり、「分からないことがあれば何でも言ってね」と声をかけてくださったりするなど、あたたかな心配りにはメンバー一同、感謝の気持ちでいっぱいになりました。多くの支えのもと無事にスウェーデンでの研修を終え、私も学友会の一員です。しかも幹事という役をいただき、不安もあります。学友の皆様からいただいたあたたかい思いを受け継ぎ次代の GSE、奨学生等に伝えていくことが私の役割と思っております。

### 〇〇〇ニュースレター編集委員会〇〇〇

顧問 菅原秀二 副会長 鈴木抄織  
幹事長 菅原桂子 幹事 西真木子